



Farmer no.6
基本をふまえた独自の工夫による品質確保

須坂市沼目 高田 洋一 氏

キーワード:収量で収益を得るよりも品質向上
(高単価)で収益を得る方が良い。

- 標高…350m
- 土壌…グライ土

ポイント

栽培マニュアルの栽培指針を基本とし、前年の反省を踏まえて、改善策を講じる。

自分の園地は粒肥大が良好なので、成熟が進むような管理で栽培を組み立てる。

作業は早め早めに行う(2回目のジベレリン処理の時期、施肥、かん水、新梢管理等)

1 主な経営品目・作付面積

ぶどう 65 a			
内訳	ナガノパープル	20a	露地 平行整枝短梢せん定
	シャインマスカット	17a	露地 平行整枝短梢せん定
	有核巨峰	28a	露地 自然形整枝長梢せん定
その他 120 a			
内訳	りんご	120a	

2 労働力

- 家族労働力 2.5人(本人、母、妻)
- 雇用労働力 延べ40人(花穂整形、摘粒)

3 「ナガノパープル」栽培方法

(1) 仕立て方法

H型 主枝長7.5m 主枝間隔2.5m 6～8年生

(2) 生産目標

① 目標房重

500～550g (粒重18～20g×25～30粒程度)

② 着房基準

主枝2mあたり両側で15房 3,000房/10a

③ 樹勢

主枝先端と主枝基部の新梢の太さが揃う様な樹勢にしたい

(3) 主要管理の方法

① せん定時期、方法

せん定はあらせん定を行わず、1月に2芽せん定を実施。

② 主枝延長枝(長梢部分)の発芽率向上のための処理

発芽率向上のための基準よりやや短め(15芽)で切る。

③ 芽かき(時期、程度)

基本は新梢が5cm程度伸びるまでに、先端側の新梢を落とし、基部側の新梢で揃える(冬期間の凍害防止のためせん定は2芽で実施。)

④ 誘引(時期、工夫していること)

新梢の誘引は房切り直前に実施。

⑤ 開花前の摘心(時期、程度)、植調剤使用

1m程度伸びた時に軽く摘心。

フラスター液剤は有核巨峰の散布時期にあわせて1,000倍で散布。

⑥ 花穂整形

満開時の軸長で3cm程度。房が大きくなるように注意している。

⑦ ジベレリン処理

1回目、2回目ともジベレリン25ppm。2回目処理は1回目処理12日後。肥大抑制とブルームを良くするため、基準の範囲内でやや早めに行っている。

⑧ 摘房、摘粒(時期、方法)

摘粒は2回目ジベレリン処理前に終了させる(目安は3日/10a)。房切り時に房を大きくすると摘粒に時間がかかるので、房切りを短くする。

摘房は主枝長2mに15房を徹底。房型の良いものから残す。

⑨ 開花後の新梢管理(時期、方法、頻度)

基準に沿って実施。再伸長した副梢葉は随時摘心。ボルドー液散布前にも摘心を行う(おおむね3回)

⑩着色進度の把握(時期、把握方法)

所々、中が見える袋を利用し、着色を確認。8月上旬に粒の基部まで色が入るように管理をしたい。

⑪収穫の目安(着色確認方法など)

LEDライトを使って、粒の付け根の着色を確認しながら収穫。9月上中旬はカラーチャート4～5以上。9月下旬～10月は3以上で収穫。

4 土壌管理

①施肥

生育に合わせて葉面散布も行っています。散布する資材は生育状況にあわせて決めます。H27年は粒肥大が良好であったため、収穫前にはりん酸成分を主とした葉面散布剤を使用するなど施肥管理で果実の成熟が早まるような管理を考えました。

視察では「資材は何を使っているのか」と質問を受けることが多いですが、「使う資材が何かと言うよりも、樹勢をコントロールするためにはどのような資材が必要か」といったことが大切だと考えています。

②かん水

自分が思った通りにかん水を実施したいため、園地に井戸を掘り、スプリンクラーを用いてかん水を実施している。

土壌水分を一定に保つためにどのようなかん水が良いか試行錯誤している。

H26年は1週間に2回(1回2時間で2日連続。)

H27年は3日に1回1時間で行っている。

③土壌水分管理

土壌の物理性の改善のため、敷きわらや土壌改良剤を利用して保水性が高まるとされる資材の使用を考えている。天気の影響を受けても土壌水分の変動が少なくなるように努めている。

5 病害虫対策

①防除体系

JA須高の防除暦

②特に工夫していること、気をつけていること

防除間隔をあげない。雨前散布(散布予定日が雨の場合前倒し散布)。

6 裂果低減のために心がけていること

栽培の基本を徹底

昨年の栽培を反省



摘粒後の様子
(2回目ジベレリン処理前に終了させる)



平成27年度うまいくだものコンクールで
受賞したナガノパープル



園地の様子



土壌水分管理の一例(敷きわら)

農家から ひとこと

県うまいくだものコンクールでは2回県知事賞を受賞し、よく「何か特別なことをしているのか」と聞かれることがあります。肥料やかん水は自分なりに考えていろいろ工夫して行っていますが、どの資材を使ったから良いというものではなく、前年の反省から栽培を改善しています。栽培方法を改善する場合にも基本的な管理からは逸脱することなく、常に基本に立ち戻りながら管理を行うことが大切だと考えています。





Farmer no.7

人から教えてもらった技術に自分なりの工夫を加える

須坂市春木町

宮前 東平氏

キーワード:ナガノパープルの栽培には自分なりの工夫が必要

- 標高…390m
- 土壌…黒ボク土

ポイント

大房は元凶。房は小さく！粒は大きく！

ナガノパープルはシャインマスカットと比べると敏感な品種。この敏感さを楽しむ。

自分なりの工夫を栽培に取り入れる。

満開70日後以降は着色確認と糖度調査を実施し、成熟状況を把握する。

房切り、摘粒作業の均一化(誰でも同じ作業となる詳細なマニュアル化)

1 主な経営品目・作付面積

ぶどう 60a			
内訳	ナガノパープル	15a	露地 平行整枝短梢せん定
	シャインマスカット	25a	露地 平行整枝短梢せん定
	無核巨峰	20a	露地 自然形整枝長梢せん定
(ぶどう園は1か所で、作業効率は非常に良い)			
その他 25a			
内訳	りんご	10a	
	プルーン	15a	

2 労働力

○家族労働力 1人(本人。農繁期の週末に長男が手伝うことがあります。)

○雇用労働力 延べ120人(花穂整形、摘粒 6~7月 2名)

3 「ナガノパープル」栽培方法

(1) 仕立て方法

H型 主枝長9m 主枝間隔3m 8年生

(2) 生産目標

① 目標房重

500～550g (1粒重20～22g×25粒以内)

② 着房基準

3,000房／15a

③ 樹勢

土地の関係からか、あまり樹勢が強くない。
やや強めに樹勢を維持するようにしている。

(3) 主要管理の方法

① せん定時期、方法

時期は12月にあらせん定。節分(2月上旬)を過ぎてから仕上げせん定。2月末までには終了させる。
主枝延長の長梢部のせん定は15芽以内で切り戻し。樹冠拡大はゆっくりと。

② 主枝延長枝(長梢部分)の発芽率向上のための処理(芽傷等)

芽傷処理は必ず行った。

③ 芽かき(時期、程度)

発芽直後から1芽座1新梢とする。樹勢が落ち着いているので、開花期に基部径が10mm程度となりそうな新梢を残して新梢を揃える。

可能であれば返し気味で発生している新梢を残すように工夫している。

④ 誘引(時期、工夫していること)

H26年度から簡易雨よけを設置したため、新梢が30～40cm程度伸びた新梢から随時行う。捻枝を行わず、誘引。せん定時に芽座の上側にある芽は削り取り、横か下側の芽を使い、誘引が楽にできる(新梢が折れない)様に心掛けている。

⑤ 開花前の摘心(時期、程度)、植調剤使用

1m程度になったら軽く摘心。

⑥ 花穂整形

ナガノパープルの花穂整形は全部自分一人で行う。雇用の方は巨峰、シャインマスカットを担当してもらっている。
花穂整形は開花が始まってから行い、軸長は3cm以下としている。

房切り時に花穂の肩の段がうまくあわなくても3cm以上にはしない。

一人で15aのナガノパープルの花穂整形を限られた時間で行うのは困難なため、5月中旬の新梢管理にあわせ、1新梢1花穂とし、シオルダーの除去と花穂上部を切り落としておき、開花期の花穂整形が短時間でできるように工夫している。

弱い新梢は房切り前に空枝としている。

⑦ジベレリン処理

1回目、2回目ともジベレリン25ppm。1回目の処理も1回で終わらせている。

特に工夫をしているわけではないが、開花期は揃っている。

⑧摘房、摘粒(時期、方法)

1回目ジベレリン処理7日後から開始し、7日間で終了できるように作業を行っている。2回目のジベレリン処理は摘粒終了直後(1回目から14日後)に行う。

房の中段の摘粒は1支柄に2粒までとし、3粒着粒させないようにする。

(3粒ある場合、通常は真ん中の粒を切除することが多いですが、宮前さんは右か左の粒を同じ側の粒を房全体で統一して切除します。これをお手伝いの方にも徹底し、誰が摘粒しても同じ房になるように努めています)

⑨開花後の新梢管理(時期、方法、頻度)

園地の構造上の関係で主枝間を3mとしたため、新梢長を長め(2m程度)に配置することが可能となった。1新梢あたりの葉枚数を多めに確保している。

着房位置までの副梢は全て掻き、房から先の副梢葉は2枚残して摘心。

⑩着色進度の把握(時期、把握方法)

着色期以降、園地に行くときは必ず糖度計を持参し、満開70日後以降は定期的に着色確認と糖度測定を行っている。ナガノパープルは着房部位によっても糖度が異なるため、半日かけて園地全体の糖度を測定することもある。

3,000房/15aを基準としているため、糖度の上昇が停滞することはない。

糖度の上昇が遅れている樹は収穫期を遅らせることによって出荷のタイミングを調整している。

⑪収穫の目安(着色確認方法など)

糖度測定のデータを目安に収穫。

(4)簡易雨よけ

H26年から簡易雨よけを設置した。

開花期の揃いが良くなった。

雨天でも花穂整形や摘粒、ジベレリン作業が計画的に実施できる。

果面のサビや裂果が少なくなって、果実品質も良くなった。

4 土壌管理

①施肥

有機系肥料(堆肥、蟹ガラ、魚粉等)のみを施用している。

②かん水、土壌水分管理

園地内に雨水を溜める地下貯水槽(17,000リットル)を設置し、かん水に利用。

降雨が無ければ4~5日に1回。1樹200~300リットルが目安。

③その他(草生管理他)

草生栽培である。

5 病害虫対策

①防除体系

JAの防除暦に準ずる。

②特に工夫していること、気をつけていること

ナガノパープルは皮ごと食べるので、皮のきれいな見た目の良いものをめざしている。薬剤散布でさびや傷がつかず、しっかりしたブルームになる様に注意している。

6 裂果低減のために心がけていること

過去にピオーネを栽培していたが、大房にした途端着色しなくなったことがあった。

そのため、ナガノパープルも大房にならないように管理を行っている。

ナガノパープルは着果量を調整することによって、糖度上昇が敏感に反応するので、常に糖度を測定している。強い新梢(強い樹勢)にしない。



園地の様子



誘引の様子
(新梢が30~40cm程度伸びた新梢から随時行う)



平成27年度
うまいだものコンクールで
受賞したナガノパープル

農家から ひとこと

人に教えてもらった技術を参考にして、自分なりの工夫が必要。
いろいろ試して失敗することもあるが、失敗の中から得るものもある。
長い目で見れば、栽培技術の進歩につながる。
ナガノパープルは大房にならない様に。
大房にしなければ、ある程度粒肥大しても裂果は少ないと思う。





Farmer no.8
基本管理の励行で目指す裂果軽減

千曲市倉科
ごうど
神戸 弘章 氏

キーワード:基本に準じた栽培管理の徹底

- 標高…380m
- 土壌…褐色森林土

ポイント

- ・園地の様子をよく観察し、適期管理に努める
- ・特に副梢管理はこまめに実施

1 主な経営品目・作付面積

ぶどう 12a			
内訳	ナガノパープル	10a	簡易雨よけ一文字整枝短梢せん定
	シャインマスカット	1a	簡易雨よけ一文字整枝短梢せん定
	クイーンニーナ	1a	簡易雨よけ一文字整枝短梢せん定

2 労働力

○家族労働力 2人(本人、妻)

※本人は月に10日程度勤めにでており、兼業農家。

○雇用労働力 なし

3 「ナガノパープル」栽培方法

(1) 仕立て方法

一文字型 主枝長10m 主枝間隔2.5m 8年生樹

(2) 生産目標

① 目標房重

400～450g (1粒重12～14g×35粒程度)

② 着房基準

4新梢に3房～5新梢に4房 弱い枝には着房させない。

③ 樹勢

一文字型のためか年々強くなってきている。

(3) 主要管理の方法

① せん定時期、方法

12月中旬にあせん定、2月中旬～3月初旬に仕上げせん定。仕上げせん定はできれば1芽せん定としたいが、1芽目の位置等が悪い場合は2芽せん定している。仕上げせん定後はその日のうちにトップジンMペーストを塗布。

② 主枝延長枝(長梢部分)の発芽率向上のための処理(芽傷等)

延長枝があった時は3月に実施していた。

③ 芽かき(時期、程度)

5月上旬に1芽座に1本程度に整理する。場合によっては2本残す場合もある。

④ 誘引(時期、工夫していること)

捻枝をかけてから誘引する。花房が下を向くようにしている。

⑤ 開花前の摘心(時期、程度)、植調剤使用

特に開花前とは限らないが、新梢が1.3mくらい(樹間2.5mの中間)まで伸びたところで摘心。随時行っている。

⑥ 花穂整形

とび花が見えたころから実施。(H27年は5月26日から5月末にかけて実施)房先3～3.5cmにしている。以前は長く残し過ぎてしまい、摘粒等で苦労したため、長くならないように気をつけている。

⑦ ジベレリン処理

1回目は2日に分けて実施。2回目は1回目を実施してから2週間以上空けずに実施。ジベレリン濃度は1回目、2回目ともに25ppm。

簡易雨よけのため、天候をあまり気にせずに実施したいときに処理できる。

浸漬処理後、余計な薬液は小型のプロワーで風を当てて飛ばしている。

⑧ 摘房、摘粒(時期、方法)

摘粒は1回目ジベレリン処理5日後から2回目のジベレリン処理までに終わらせるようにしている。

2回目のジベレリン処理後、定期防除を実施し、速やかに袋かけ・カサかけを実施している。H27年は6月28～29日に実施した。

⑨開花後の新梢管理(時期、方法、頻度)

副梢は果房までのものはすべてかき取り、それ以外は先端の副梢も含めて1枚で摘心。新梢の先端を1.3m程度で摘心しているため、葉枚数は十分だと考えている。

園地が家の横にあるので、ほぼ毎日様子を確認している。時間がある時は畑にでるようにして、随時副梢管理を実施している。

⑩着色進度の把握(時期、把握方法)

着色はじめ(トビ玉)の時期と8月初旬には着色進度を把握するように努めている。

⑪収穫の目安(着色確認方法など)

JAの出荷解禁日を参考に、着色と食味を確認し、出勤がない日に実施。

4 土壌管理

①施肥

10月上旬に実施。JAの施肥基準を参考にJA技術員や普及センター職員の助言をふまえて施肥量を決めている。

②かん水、土壌水分管理

マイクロスプリンクラーによるかん水を実施している。H27年は4月1日からかん水を始めた。しばらく降雨がない時や土壌が乾燥していると思った時に実施するため、乾燥している時期は毎日のようにかん水を実施するときもある。時間はその日の状況によりまちまちだが、平均で1時間半から2時間程度。土が少しでも湿れば価値があると考え、少量多数回かん水を心がけている。

また、保湿効果を狙い、4月下旬にワラを切って樹冠下に敷いている。

H27年は8月中旬から樹冠下にビニールシートを敷き、急激な土壌水分の変動がないようにした。

③その他(草管理他)

基本的には草生栽培だが、主幹から半径2~3mにはワラを厚めに敷いているため、その範囲の草管理はほとんど必要がなかった。

5 病虫害対策

①防除体系

JAの防除体系。手打ち散布をしており、主幹部の湾曲部分や芽座などに薬液がしっかりかかるように丁寧に実施している。

②特に工夫していること、気をつけていること

春先までは防寒対策を実施しているため、そ皮削りは4月上中旬に実施し、主幹害虫の耕種的防除と合わせてその後の薬剤防除の効率化を図っている。

6 裂果低減のために心がけていること

JAや普及センターの指導どおりに実施するように心がけている。栽培管理について迷った時は、JA技術員や普及センター職員に相談する。

特に、JAから定期的に発行される「指導通報」(その時期の栽培管理の方法等が掲載されている)は良く読んで実践するようにしている。



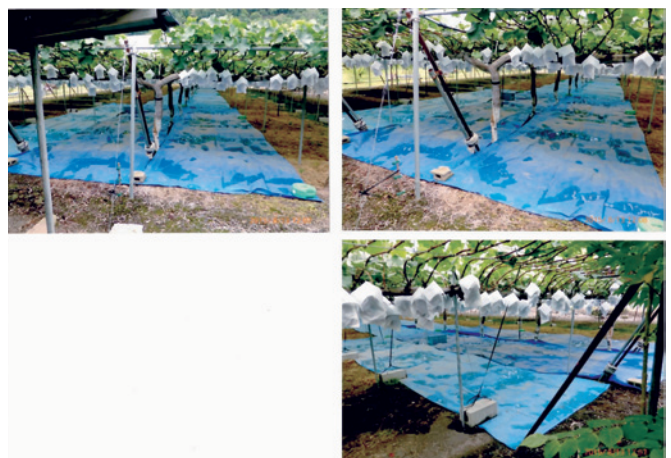
園地の様子
主幹から半径2~3mにはワラを厚めに敷く



・4新梢に3房~5新梢に4房を着房
・捻枝をかけてから誘引(花房が下を向くように)



収穫近くの果房(着色進度と食味を確認)



ビニールシートを用いた土壌水分管理の様子

農家から ひとこと

裂果がなく、おいしい「ナガノパープル」を生産できるように、

ほぼ毎日、園地の様子を観察する。

出勤日には多くのことはこなせないが、副梢の摘心などの新梢管理は毎日少しずつでも実施し、裂果させないようにしている。





Farmer no.9
こまめなかん水管理による裂果軽減

中野市一本木 滝沢 君雄 氏

キーワード:全ての房の着色を確認して収穫

- 標高…405m
- 土壌…褐色低地土

ポイント

マニュアル通りに管理すること
定期的なかん水の実施
適正な着果量

1 主な経営品目・作付面積

ぶどう 53a			
内訳	ナガノパープル	20a	雨除 平行整枝短梢せん定
	シャインマスカット	33a	露地 平行整枝短梢せん定
その他 40a			
内訳	おうとう	10a	加温施設
	りんご	20a	普通樹(ふじ)
	その他	10a	

2 労働力

- 家族労働力:4人(本人、妻、息子、息子の妻)
- 雇用労働力:なし

3 「ナガノパープル」栽培方法

(1) 仕立て方法

H型、主枝長6m(一部樹冠拡大中)、主枝間隔2.4m、8年生樹

(2) 生産目標

① 目標房重

450～500g(1粒重14～15g×30粒程度)

② 着房基準

4新梢に3房、弱い新梢には着房させない。

約3,200房/10a

③ 樹勢

第一果房と第二果房の間の節直径9～10mm(満開時)程度。

(3) 主要管理の方法

① せん定時期、方法

12月上旬にあらせん定を実施。

3月上旬に長梢部の切り返しせん定を実施(20芽程度)。また新梢部を1芽にせん定する。

② 主枝延長枝(長梢部分)の発芽率向上のための処理(芽傷等)

芽傷処理は未実施。

③ 芽かき(時期、程度)

展葉4～5枚頃に、新梢を揃えるように強いものと弱いものをかく。

④ 誘引(時期、工夫していること)

房切り前の展葉7枚頃に実施。20cm間隔になるように新梢の整理を行う。

基部に近い新梢は予備枝として残す場合もある。

⑤ 開花前の摘心(時期、程度)、植調剤使用

葉の枚数を確認して伸びている新梢から14枚～15枚で新梢先端部を摘心する。短いものについては開花後に葉枚数12枚頃に摘心する。

フラスター液剤は不使用。

⑥ 花穂整形

肩が咲き始めた頃から始める。房切り前に第1と第2の花穂は形の良く整った方を残し、1花穂に整理する。房先3cmを残すようにしている。

⑦ ジベレリン処理

2回処理。2回とも25ppm。

1回目→処理前に花冠落としを行う。2度に分け、1度目で95%、2度目に5%処理し、遅れた果房は摘房する。

2回目→1回目ジベレリン処理10日後を目安に摘粒終了させて1度で処理する。

⑧摘房、摘粒(時期、方法)

摘房は、基準どおり4新梢に3果房。摘粒前に基準通りの着果量にする。摘粒は、1回目ジベレリン処理後すぐに始める。最初に一通り軸長を揃えてから摘粒に入る。

⑨開花後の新梢管理(時期、方法、頻度)

ジベレリン2回目処理後30日以内実施。房までの副梢は全て芽欠き。その他の副梢は1葉残して摘心。先端の副梢は4枚程度残し、全体で葉枚数が25枚程度になるように新梢管理を行う。果房や本葉に日光が入るようにしている。作業は手で摘芯できるくらいの時に他の作業と合わせて行う。

⑩着色進度の把握(時期、把握方法)

ゆるめの房となるようにして、付け根までしっかり着色を確認している。

⑪収穫の目安(着色確認方法など)

収穫前に全ての袋を外して、果てい部の着色を見て収穫している。

(4) 雨除け

4月下旬に被覆。温度センサーで谷間の自動換気、雨の時のみ手動で閉めている。

4 土壌管理

①施肥

基肥・土壌改良で、9月下旬の収穫後にエアープイント(コーンコブ残さ等)300kg/10a、ニューエコマグ15kg/15a(樹幹周囲)。

②かん水、土壌水分管理

チューブ式かん水。(スミサンスイR-ハウスワイド、散水幅4.5~7.2m)樹列の両側1mに設置してかん水実施。発芽までは30分/1回/3日、発芽から開花頃まで30分/1回/週、開花から果粒肥大期30分/3回/週、とび玉から収穫まで10分/2回/週。かん水時期は午前10時頃に行う。

③その他(草管理他)

草生栽培(草刈り7~8回)。草刈り機で刈れない施設周辺部の根のない所のみ除草剤2回使用。

5 病虫害対策

①防除体系

JA中野市のぶどう防除暦に準じている。

②特に工夫していること、気をつけていること

施設なのでボルドーのみ抜いてる。

6 裂果低減のために心がけていること

- ・樹冠がいっぱいになるので、肥料を抑えるようにしている。
- ・棚が暗くならないように心がけている。



房型



かん水の様子



園内の様子

農家から
ひとこと

副梢発生が少なめの落ち着いた樹勢をめざして、台木も含め、園地にあった適正樹勢を検討していきたい。

これから新植する苗木についてはWH型にしていきたい。





Farmer no.10
加温ハウスで管理の分業化による高品質生産

中野市新井 藤沢 重正 氏

キーワード:先手先手のこまめな管理で、
品質向上と裂果軽減

- 標高…382m
- 土壌…褐色低地土

ポイント

管理は早めにやること、マニュアルどおりにやること
早めの管理(芽欠き、新梢誘引、摘心など)。
ジベレリン処理は、花冠落としの徹底、2回目処理は果粒肥大重視。

1 主な経営品目・作付面積

ぶどう 80a			
内訳	ナガノパープル	55a	施設 平行整枝短梢せん定
	シャインマスカット	25a	施設 平行整枝短梢せん定

2 労働力

- 家族労力:3人(本人、妻、息子の妻)
- 雇用労力:延べ15人(花穂整形、摘粒)

3 「ナガノパープル」栽培方法

(1) 仕立て方法

H型、主枝長6m、主枝間隔2.4m、5年生樹

(2) 生産目標

① 目標房重

500～600g (1粒重15～16g×25～30粒程度)

実績 8～9房／5kg箱出荷が主体

② 着房基準

弱い新梢には着房させない。

4新梢に3房とし、3,000房／10aが目標

③ 樹勢

第一果房と第二果房の間の節直径9～10mm (満開時) 程度

(3) 主要管理の方法

① せん定時期、方法

2月下旬、長梢部の切り返し程度：15～18芽、2芽せん定で基部側の芽を伸ばす。

② 主枝延長枝 (長梢部分) の発芽率向上のための処理 (芽傷等)

基部に近い部分と太めの枝に芽傷処理を実施。

③ 芽かき (時期、程度)

展葉確認後は、早めに随時で6回程度実施。

④ 誘引 (時期、工夫していること)

伸びた枝から早めに随時実施。隣同士の新梢が重ならないように配置する。

⑤ 開花前の摘心 (時期、程度)、植調剤使用

フラスター液剤1,200倍、加温機周りにトビ花が見えた新梢展葉7枚頃に散布。新梢先端は展葉11～12枚で先端を軽く摘む程度の摘心実施。

⑥ 花穂整形

女性2名が主体、開花初めの頃から作業を始め、強めの新梢は2花穂を房切り、弱めの新梢は1花穂のみ房切り実施。房先3cmを残している。開花中も散水 (少量) を実施して着粒安定。

⑦ ジベレリン処理

2回処理。2回とも25ppm。

1回目→花冠 (キャップ) がしっかりと取れて (取って) から2回程度に分けて実施、強い枝のみ2房に処理。房毎に開花の進み具合に合わせて順次処理するが、概ね2度で実施する。

2回目→果粒肥大重視 (果粒9mm位)、2～3回に分けて登録期間内で大きな果粒の房から順次実施している。

⑧ 摘房、摘粒 (時期、方法)

摘房は2回目のジベレリン処理前に弱めの新梢房をまず落とし、強めの新梢を残す。摘粒は、1回目ジベレリン処理5日後から始めて下向きの果粒を取り、外向きの果粒を残し、2回目のジベレリン処理前に完了させる。

⑨開花後の新梢管理(時期、方法、頻度)

花穂整形以降、先端は反対側主枝の房に掛からないように摘心。副梢は2葉残しで摘心。着色期に果房周辺を明るくするように副梢と再伸長した先端の摘心を実施。管理作業は、かん水時など随時まわり5回程度実施。

⑩着色進度の把握(時期、把握方法)

着色進度を確認する目安の樹があり、その樹でその年の着色の進度を確認する。とび玉が出る頃から定期的に、かん水するときなどに果粒の付け根を確認。

⑪収穫の目安(着色確認方法など)

着色が収穫基準に達している物から食味を確認し収穫する。JA中野市技術員にも最終確認をしてもらう。

(4)加温体系

3月上旬と3月下旬の加温開始。それぞれ7月下旬と8月上旬に収穫期。

4 土壌管理

①施肥

基肥・土壌改良として9月下旬～10月上旬に1年間ねかしたキノコ使用済培地2t/10a、種かす70kg/10a、エアポイント堆肥(コーンコブ残さ等)100kg/10a(樹幹周囲)、アズミン苦土石灰40kg/10a。追肥等で追肥グリーン2号10kg/10a、苦土の葉面散布を開花まで適宜散布など。

②かん水、土壌水分管理

ドリップかん水(マイクロスプリンクラー)。発芽～開花前3～4時間/1回/週、開花前～開花2時間/1回/週、開花中は日中10～20分散水/日、着粒～着色始2時間/2回/週(とび玉まで土壌表面が白くならない程度に様子を見てかん水を調整。暑いときは毎日数十分程度かん水。)、着色始～着色盛期30分/日、成熟～収穫10分/日。

③その他(草管理他)

草生栽培(草丈20cm以内に管理で草刈り5～6回程度/年)

5 病虫害対策

①防除体系

JA中野市の加温ぶどう防除暦に準じている。

②特に工夫していること、気をつけていること

晩腐病防除に発芽前(休眠期)にベンレート水和剤300倍散布。

6 裂果低減のために心がけていること

- 水管理と新梢管理をこまめに行うこと
- 作業を先送りにしないこと



房型



園内の様子



着果の様子

農家から ひとこと

「ナガノパープルは水が好きだなと思った。」

「花カス落としをしっかりやっている。」

本人は、新梢整理専門に管理を実施。

(房づくりは妻と息子の妻が中心に作業、ジベレリンは息子の妻が主に処理している。)





当事例集の全ての複製・コピーを禁止します。

農業技術指導のために当事例集の一部を転載・複写して利用する必要がある場合は、必ず出典を明記してください。

当事例集は長野県生産技術指導用資料なので、県外への譲渡はおやめください。

問い合わせ先

長野県園芸作物生産振興協議会 うまいくだもの推進部会

事務局 長野県農政部 園芸畜産課 果樹・花き係

電話番号 026-235-7227 (直通)

各地域農業改良普及センター、JA